2008 年 12 月 1 日

世界のエネルギー企業トップ 250 社

Platts 社が 2008 年の世界のエネルギー企業トップ 250 社を発表した。企業のランク付けは、資産規模が 20 億ドル以上の企業を財務的(資産、売上、収益、投資回収率等)に評価したものである。この 250 社の中から、世界のトップ 10 社とアジアのトップ 10 社を表にまとめた(次ページに掲載)。

世界の TOP10 社は総てが石油・天然ガスの生産企業である。近年の原油・天然ガス価格高騰が大きく影響している。アジアの TOP10 社を見ても上位は石油・天然ガスを多く生産している企業である。

企業の国を見てみると、欧米に続いて、ロシア、中国、インドといったいわゆる BRICs 国が進出しているのが目立つ。急速な経済発展とともに国土も大きく石油天然ガス資源を有し、それらを生産することから、また、原油・天然ガス価格が高騰したことから、これらの国の企業のランクが上昇しているようである。

日本のエネルギー企業で世界 TOP250 社の中に入っているのは、新日石が 50 位(アジアでは 8 位)、日鉱ホールディングスが 68 位、関西電力 95 位、昭和シェル石油 107 位、東京電力 125 位、九州電力 143 位、東北電力 158 位、出光 158 位、東京ガス 159 位となっている。一時期に比べ、日本企業のランキングはかなり低下している。これは、これら日本エネルギー企業のビジネスに占めるエネルギー資源開発分野の比重が小さく、エネルギーのほとんどを海外から購入し、そのエネルギー価格の高騰したことが大きく影響しているのであろう。

最近の世界的不況の影響で原油価格は急落しているが、長期的には石油の需給ギャップは大きく、原油価格は再び上昇すると見られている。言い換えれば日本のエネルギー企業の世界的なポジションは、このままでは更に低下していくことになるように考えられる。バブル崩壊後の経済停滞により、企業活動を国内に集中せざるを得なかった日本のエネルギー企業も、今後大きく飛躍するためには、右肩下がりの国内経済への比重を減らし、いろんな形で海外を目指す必要があるように思われる。特にエネルギー資源開発は必須事項であろう。

(エイジアム研究所 研究主幹　熊川　滉)

Asiam Research Institute　http://www.asiam.co.jp/

世界のエネルギー企業のランク

順位	世界の TOP10		アジアの TOP10	
	企業	国	企業	国
1	ExxonMobil	米国	PetroChina	中国
2	Royal Dutch Shell	オランダ	China PCC(SINOPEC)	中国
3	Total	フランス	Reliance Industries	インド
4	Chevron	米国	Oil & Natural Gas	インド
5	BP	英国	PTT	タイ
6	Rosneft Oil	ロシア	CNOOC	中国
7	ENI SpA	イタリア	Indian Oil	インド
8	StatoilHydro	ﾉﾙｳｪｰ	新日本石油	日本
9	Petrochina	中国	Formosa Petrochemical	台湾
10	Gazprom	ロシア	China Shenhua Energy	中国